



# こんぴらさん障壁画の謎

—若冲・岸岱をめぐって—

## 【第14章】

# 奥書院 建物と障壁画の修理

金光院（現在の表・奥・白書院）は建立以来、漸次増改築がなされ形態を変化させており、内部の障壁画においても度々修理が行われてきた。奥書院の建物と障壁画の修理歴をみてみよう。

享保 2年（1717）『金光院日帳』に「五月廿日御書院上段御普請ノ節…」

「七月廿一日御書院御普請成就に付…」の記述あり

明和元年（1764）伊藤若冲奥書院障壁画制作

享和元年（1801）建物修理工事<sup>1</sup>

天保15年（1844）建物修理工事。岸岱奥書院障壁画制作。

明治33年（1900）前年の台風被害により屋根葺替。表・奥書院障壁画裏打ち<sup>2</sup>

明治42年（1909）建物修理工事。壁貼付絵を非常の際にはずして運びだせるよう障壁画を一たん剥がし枠貼りとする<sup>3</sup>

大正 9年（1920）「上段の間」北側に付属していた風呂や雪隠を去除<sup>4</sup>

大正11年（1922）《百花図》床の間張替修理<sup>5</sup>

昭和14年（1939）「柳の間」南側西寄りの障壁画1枚壁の亀裂による雨水侵入のため修理<sup>6</sup>

昭和34年（1959）～昭和35年（1960）

建物解体修理。障壁画修理 施工・宇佐美直八<sup>7</sup>



修理前西側屋根



解体中小屋組状態（右下上段の間）



解体中床組状態（手前菖蒲の間）  
【奥書院修理工事報告書】

昭和63年（1988）この年より4年かけて奥書院障壁画84面修理

平成 8年（1996）「春の間」長押1面修理

平成10年（1998）「柳の間」2面修理

平成17年（2005）10月28日

《百花図》床貼付左上隅亀裂応急処置 施工・岡墨光堂

平成19年（2007）5月21日～6月26日

展覧会出品のため伊藤若冲・岸岱襖絵修理

施工・国宝修理装演師連盟

平成19年（2007）6月6日・7日

展覧会出品のため岸岱襖絵障子腰貼付修理

施工・久保清風堂

平成20年（2008）2月1日～同年9月30日<sup>8</sup>

銅板屋根葺替、建物部分修理



屋根解体中



銅板屋根施工中



銅板屋根施工完了

平成20年（2008）4月～平成21年（2009）8月<sup>9</sup>

《百花図》床の間正面壁貼付・落掛上小壁貼付・

床の間左右壁貼付2面修理、施工・岡墨光堂



奥書院「上段の間」から取り外される百花図



剥落修理前



剥落修理後



亀裂修理前



亀裂修理後

令和3年(2021)11月～令和5年(2023)年3月

《百花図》西面長押上南側壁貼付と襖4面、  
《春野稚松図》北側襖4面修理 施工・岡墨光堂



現地養生



解体



旧肌裏紙除去



肌裏打



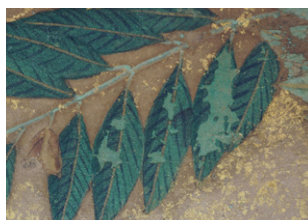
亀裂修理前



亀裂修理後



剥落修理前



剥落修理後

これらの他にも記録に現れない小修理が度々行われたであろう。障壁画は経年劣化による本紙の傷み、絵具の退色や剥落はみられるものの、過去の修理の恩恵にあずかって、現在も建築物内にて保存され鑑賞することができている。そして我々は、この貴重な文化財を後世に伝えていく役割を担っているのである。

- 1 ①「奥書院修理工事報告書」p.3、p.24、第53図
- 2 ②西牟田崇生「明治三十三年の金刀比羅宮宝物調査－『国宝さぬき日記』より－」p.321、p.334
- 3 ①「奥書院修理工事報告書」pp.44-45
- 4 ①「奥書院修理工事報告書」p.45
- 5 ①「奥書院修理工事報告書」p.45
- 6 ①「奥書院修理工事報告書」p.45
- 7 ①「奥書院修理工事報告書」p.5、p.10
- 8 ③「こと比ら」64号、p.20
- 9 ④「こと比ら」65号、pp.58-61

参考文献

- ①「重要文化財金刀比羅宮奥書院修理工事報告書」金刀比羅宮奥書院修理委員会、1960
- ②西牟田崇生「明治三十三年の金刀比羅宮宝物調査－『国宝さぬき日記』より－」『こと比ら』62号、pp.316-341、2007
- ③「こと比ら」64号、金刀比羅宮、2009
- ④「こと比ら」65号、金刀比羅宮、2010